

諏訪小だより

令和5年1月10日

1月号

多摩市立諏訪小学校

校長 齋藤 幸之介

粘り強くとりくむ子供たちの姿を求めて

校長 齋藤幸之介

新年の青空は澄みわたり、諏訪から見える富士の頂もきっと一層誇らしげであったであろう、と想像をしておりました。

世の中の状況は未だ安定をしません、職員一同少しでも早く好転するように願っており、また可能な限り様々な挑戦をしたい、と気持ちを新たにしております。引き続きどうぞよろしくごお願い申し上げます。

調査に表れた諏訪小の子供たちのよさ

さて、まず初めに、12月中旬のある出来事をお伝えいたします。

某大学の教職大学院生より算数科教育の充実のための調査依頼を受け、6年生の子供たちが協力をしてくれました。

調査が終わってからしばらくして院生より連絡がありました。調査に取り組む姿勢が素晴らしかった、ということでした。「子供たちが個性的な考え方や考える道筋を表現していた」、「一人一人が異なる速度で取り組み」ながら「何かを分かろうとしていた」という見取りでした。院生だけでなく指導教官の先生も同様の評価をされていた、とのことでした。

このことを受けながら、私は、教育の抱える今日的課題と、これを解決している本校の子供たちのよさを確認したところです。

粘り強く

－「主体的に学習に取り組む態度」より－

以前学力調査が行われた際に、「二極化」が話題になりました。調査結果の多くは平均点の周辺の値を頂点とした山型の分布となる、と言われていますが、我が国は大体ができる子とそうではない子との二つの山ができる、フタコブラクダの背のようであると指摘をされたのです。特に後者については、「途中で解くことをあきらめる」といった実態がある、とも言われました。

文部科学省は、かつて四つに分けていた学力の要素を、三つに改めています。本校でも、数年前から通知表の各教科の評価が三観点になっています。そこに、「主体的に学習に取り組む態度」があります。ここには、知識及び技能の獲得、思考力、判断力、表現

力等を身に付けるために、学習に「粘り強い取組をしている」かどうかを評価する、とあります。私共は、改めて子供たちが最後まであきらめずに取り組む学習の具体化に取り組まねばなりません。

よりよく学ぶ大切さ

－主体的に学習に取り組むために－

私共は、子供たちが主体的に学習に取り組むために、「問い」を設定し、これを自ら解決し、そして決まりや概念などを見出し出していく、というプロセスを意識しています。また、ここには、体験を始めとする様々な具体的な活動を組み入れ、子供たちの意欲をさらに喚起するようにしています。本校でも学習の質が変化してきています。

一方で、子供たちの学ぶ姿を肯定的に評価していくことが重要である、とも言われています。自身の取り組み方が認められれば、子供たちの自尊感情は高まり、「また頑張ろう」という姿につながる、ということです。取り組み方をきちんと示す、という大人の役割も踏まえながら、よさを見い出して褒めていくことを再確認したいと思います。

このことは、学校での学習活動だけでなく、家庭での取組も大きく影響されている、とされます。平素より御協力をいただいている家庭学習、夏に多大なるお力添えをいただいている「夏チャレ」などで、時に御家族の御助言をいただきながらしっかりと取り組んでいる成果と有難く思っています。

学びをあきらめていては「何かを分かろうとしていた」姿は見られないでしょう。御家庭の御協力に改めて感謝をするとともに、個々により適した学びを見い出しながら子供たちのよさを認め、さらに伸ばさせたい、と考えています。

<参考>

山本健志郎「養育態度と非認知能力が目標志向性に与える影響の検討」(2020年 応用教育心理学研究第37巻)
志水宏吉「納得の行くビジョンを示し、教委と現場のベクトルをそろえることが、施策成功のカギ」(2016年 VIEW21 (ベネッセ教育総合研究所))